

真冬の朝日を浴びながら

まだ静かな道歩く
足音だけ聞こえてくる
真冬の朝日を浴びながらゆく

そっと吐き出す白い息が
光にほどかれ空へと溶けゆく
眠りの名残り 抱えて
影を連れて歩く

陽の光
冷たさの奥にある
かすかな温もりをこの
手のひらで確かめ
今日という日が
静かに始まる

駅へ向かうまばらな影
長く伸びては揺れている
真冬の朝日を浴びながらゆく

駅のたびに停まる電車
扉が開くとき冷たい風が
コートの襟 僅かに揺らし
小さく震えてしまう

車窓（マド）の外
冷たい風の中
淡い光 ビルのフチを染め
手すりを握りしめ
今日という日が
動き出してく

AI が答えてくれる

切なさはただ痛いだけの感情でない
まだ言葉にならないものが潜んでいる

さわれば崩れてしまいそうな
薄いガラスのようでいて
その奥には深掘りするたび
震える

AI は魔法でないけれども
少し前に 進む光が僅かにある

言葉を探し続けて夜が更ける
それは
まだ終わってはいない想いの証

忘れたくない感触と
忘れない記憶
よりによって
この体の同じところに
眠っているから

AI が答えてくれる胸の奥で
灯りが
小さく揺れる

今でも君は

時が流れて 景色も変わり
歩く道は 別々のままに
ふれられない距離になっても
言葉を交わせなくても

心の奥 心のどこかで君は
確かに息づいている
時折思い出すこともあって
忘れられないものがある

まるで静かな 風のように
思い出にふれている時
胸の奥にそっと吹き抜けて
揺らぎを残していく

それはきっと気持ちの中で
大切にしていた証
今でも君は僕の片隅で
静かに、やわらかく、光っている

心の奥 心のどこかで君は
確かに息づいている
時折思い出すこともあって
忘れられないものがある

つかの間の陽の光

少し寒くなった午後の
陽の光を浴びながら
西へ向かう鳥たちにも
うつろな鳴き声が聞こえてくる

我が子のことわからぬほどに
年老いてしまっても
今よみがえる子供の頃に
遠くを見つめながら

杖について歩く姿に
涙も枯れてしまう

ずいぶん昔の出来事を
まるで昨日のことのように
幼い頃の我が家子のことを
妄想に浮かべながら

笑いながら走った日よ
あの頃は帰らない
今よみがえる若い頃を
打ち碎く残酷さ

年をとつてどうなるか
誰にもわかるはずない

冬の九十九里

砂浜に影が伸びて
寄せては返す激しい波が
静けさの中胸に響く
確かな命感じるひととき

両手広げて薄紅浴びて
自分の長い影を作る
その後ろに遠くの雲
ゆっくりと朱色に染まる

冬の夕日海の中に
そっと触れる九十九里の
浜に静かな金色の風
その風だけはどこかあたたかく感じる

波は薄紅をまとって
寄せては返すとまることなく
静けさの中胸に響く
永遠の音感じるひととき

今日の夜はいつもと違う
綺麗な星空の下
胸の奥の凍ったもの
ゆっくり溶かしていく

人もまばらな海岸線を
そっと優しく九十九里の
浜に足跡つけるたびに
心の奥のざわめきをさらってゆく

冬の夕日海の中に
そっと触れる九十九里の
浜に静かな金色の風
その風だけはどこかあたたかく感じる

春を待ちわびて

ビルの谷間抜ける風が突き刺さる
空はどこまでも薄い色で

雪さえもない冷たさだけが
じんわりと体温奪ってゆく

凍りつく朝の光の底から
ひとひらの温もりそっと探す

乾いたアスファルト
街路樹の影を
細く長く描く黒い色で

人の流れに紛れてみても
誰の温もりも届かない

信号の光が無機質に輝く
都会の冬の中
目立つ色で

凍りつく朝の光の底から
ひとひらの温もりそっと探す

ビルの谷間抜ける風が突き刺さる
空はどこまでも薄い色で

ジグソーパズル

私には決められた
居場所がある
ひとりと収まる場所
どこかにある

合わない景色をこわし
無理に押し込まないで
静かに落ち着いて
輪郭を探して

誰かが決めた枠でなく
私というピース
自分の形を探し
自然に息をする場所

どこか不器用で
いびつな私
それでも収まる場所
どこかにある

たった一つの隙間をさがし
そこに収まった時
世界の絵は少しだけ
完成に近づく

誰かが決めた枠でなく
私というピース
自分の形を探し
自然に息をする場所

寒さと共に「グッドバイ」

言葉にならない想いを抱えたまま
それ違ってゆく影が消えてゆく

「またね」と一言
言えなかった
白い息に紛れて
遠くに消えてく

冬の終わりは
どうしてこんなにも
永遠の別れを
連れてくるのだろう

寒さにさよなら
それと共に感じる
あなたが連れてきた別れの痛みも

胸の奥にしまって
歩き出す
まだ見ぬ季節に
足を踏み出す

冷たい風の中で
春に向かおうとして
取り残された心
置き去りにしたまま

冬の終わりは
どうしてこんなにも
永遠の別れを
連れてくるのだろう